



さくのけいこ  
作野桂子 議員  
Sakuno Keiko

# Q. 外出支援として敬老パスを

## A. 調査研究していく

町民のあらゆる世代の方々から「要望されるのが「公共交通機関」についてであり、町外に移りたいとする理由のトップは「交通の便が良くなりたい」だそうです。

「第5次総合計画」構想に「誰もが快適で利便性の高い生活を送ることができる町」を実現すると記載がある。

「敬老パス」など移動支援や、子どもたちの未来を守るためにも環境に配慮した新しい取り組みに期待をしつつ、質問する。

**Q** 「高齢者運転免許証自主返納支援事業」の昨年、現時点での申請者数は。

**A** 総務部長  
平成30年は60名、令和元年8月31日現在で25名。

**Q** 高齢運転者による重大な交通事故の発生や、改正道路交法などを背景に、運転に不安を感じる高齢者が増え、運転免許証自主返納数は増えていくと予想される。

今後は、自家用車に依存しなくとも生活の質を維持していくことが必要。高齢になつてからのバス利用は難しい。なるべく若いうちからバスを利用してもらい乗り慣れてもらう必要がある。利用者の少ない時間に限った敬老パスを作るなどの対策をしてはどうか。

**A** 生活福祉部長  
生活支援体制整備協議体をはじめ様々な方からご意見をお聞きし、他市町の状況も調査研究していく。



▲敬老パスの実現を

# Q. 避難所に家族専用スペースを

## A. 一層の充実に努めていく

**Q** 熊本地震・被災女性支援サイト「はあもに」のアンケートでは「子供が小さく、避難所で騒ぎ、怒られたので居づらくなった」「小学校に避難して『おにぎり配りますので〇〇へ並んでください』とアナウンスが流れたが、子ども2人(当時1歳と3歳)を1人で見ている状況だったので、並ぶことができず食事が手に入らなかった」という声があった。

**A** 総務部長  
避難所に妊産婦や乳幼児の家族専用のスペースを作るなどの対策を。

**A** 授乳用テントを志水小、新栄小は配備済み。妊産婦や乳幼児家族専用のスペースについては、より一層の充実に努めていく。

**Q** 熊本県益城町ではテント村避難者数も含めて、全体の3分の1ほどの人が車中泊やテント泊をしている。豊山町でも災害時に車中泊やテント泊を考えている方が、たくさんいると思われる。

**A** 総務部長  
車中泊やテント泊ができる場所として想定されている場所はどこか。防災キャンプ実施時に校庭でテント避難体験をしてはどうか。

**A** 総務部長  
避難者の安全の確保、また避難者数の把握などを考慮し、まずは学校体育館などへ避難をお願いする。

現在は車中泊やテント泊による避難場所を明確に定めていない。今後は避難所運営体制について検討する。テント避難体験は避難所運営体制の検討結果を踏まえ、判断する。